

Ⅱ 暮らしの向上

8 安全・安心の確保

2 犯罪及び交通事故抑止対策の推進

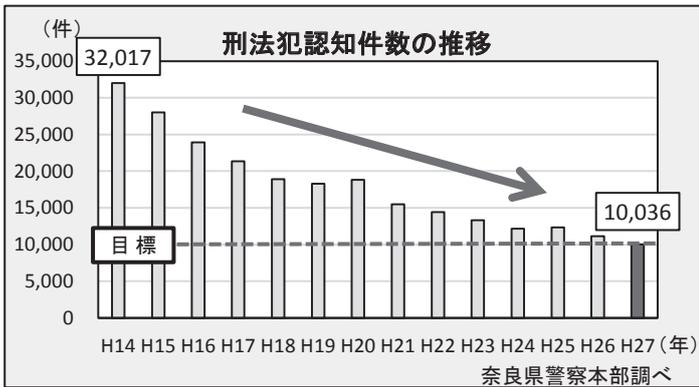
主担当部局(長)名
警察本部長 安田 浩己

目指す姿

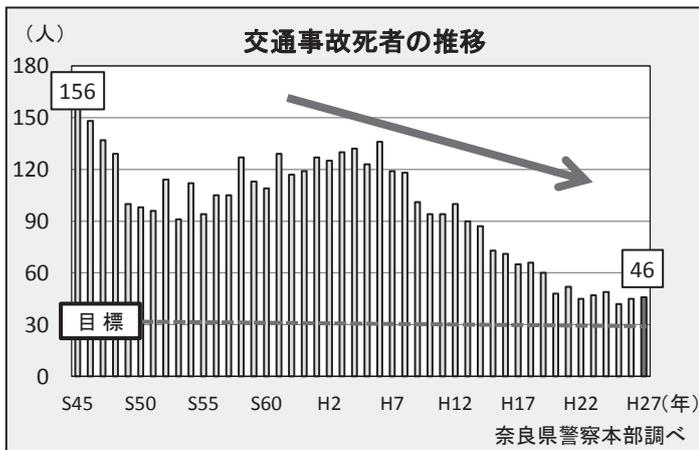
犯罪・交通事故を減らすことにより、日本一安全で安心して暮らせる奈良の実現を目指します。

関係部局(長)名:危機管理監 長岡 雅美、こども・女性局長 福西 清美、県土マネジメント部長 加藤 恒太郎、教育長 吉田 育弘

1. 政策目標達成に向けた進捗状況

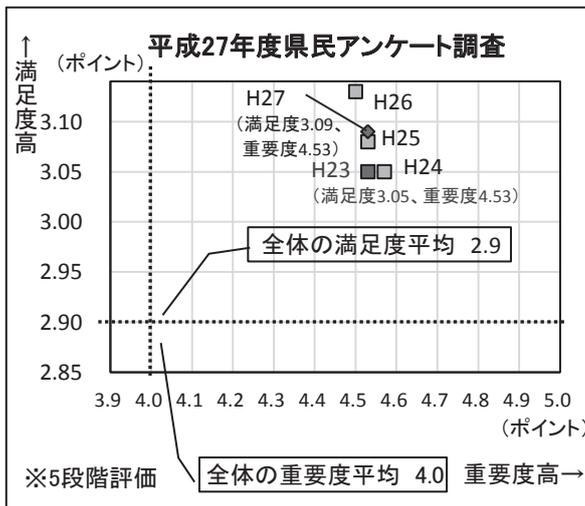


目標	平成27年末までに、年間の刑法犯認知件数10,000件以下を目指します。
取組	地域の犯罪情勢に即した犯罪抑止対策等を推進しました。
成果	平成27年中の刑法犯認知件数は10,036件で、平成26年より1,104件減少し、戦後最多であった平成14年(32,017件)の3分の1以下にまで減少し、概ね目標を達成しました。



目標	平成27年末までに、年間の交通事故死者数を限りなくゼロ(30人以下を目途)に近づけます。
取組	高齢者を中心とした総合的な交通事故防止対策等を推進しました。
成果	平成27年中の交通事故死者数は46人で、平成26年より1人増加しましたが、戦後最多であった昭和45年(156人)の3分の1以下にまで減少しました。

2. 現状分析



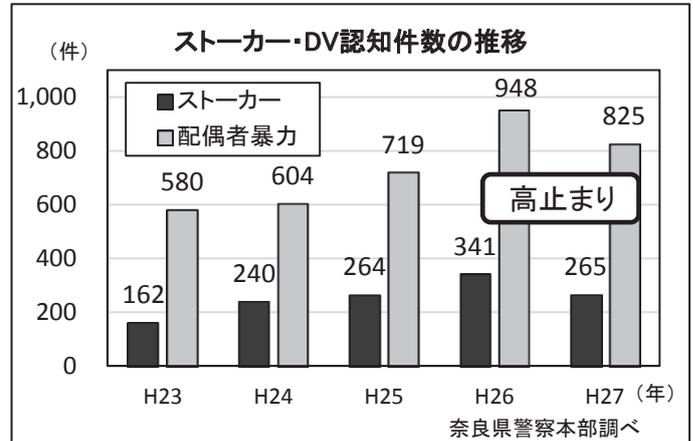
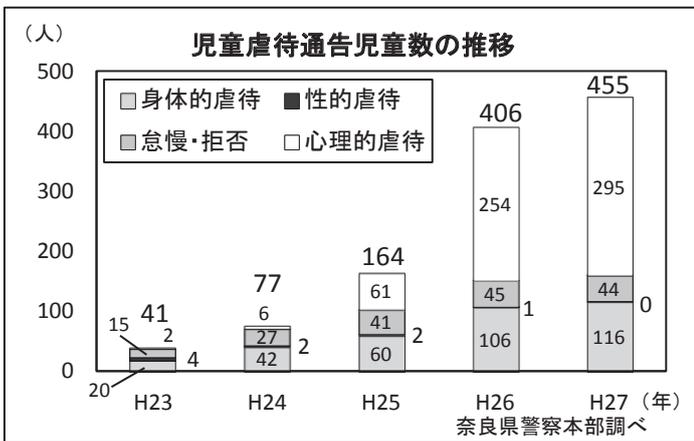
近畿2府4県の状況(H27年)

順位	府県	認知件数(件)	人口※(単位千人)	犯罪率
26	奈良県	10,036	1,365	7.35
33	和歌山県	7,539	964	7.82
34	滋賀県	11,308	1,413	8.00
39	京都府	24,068	2,610	9.22
45	兵庫県	59,374	5,537	10.72
47	大阪府	132,471	8,839	14.99
	全国	1,098,969	127,110	8.65

※ 人口はH27年の国政調査による。奈良県警察本部調べ

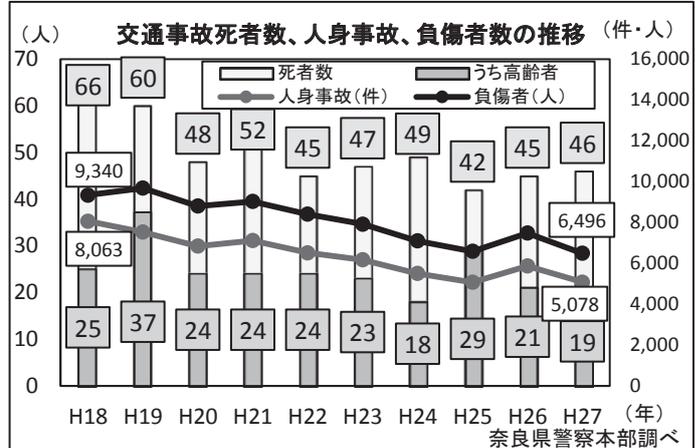
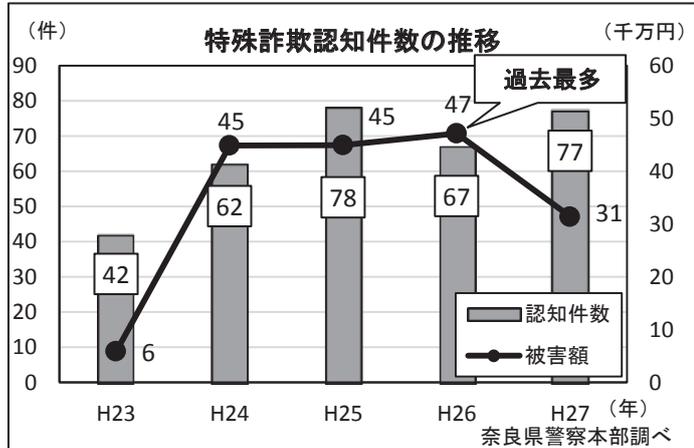
人口千人当たりの犯罪率は7.35で、平成26年より0.75ポイント減少しており、近畿2府4県で一番低い数値です。

平成27年度県民アンケート調査の結果、「住民が犯罪の被害に遭うことがなく、その不安を感じることなく暮らせること」の満足度は3.09ポイント(全32項目中第5位)、重要度は4.53ポイント(全32項目中第2位)と、いずれも平均より高い領域にあります。



- ・平成27年中に、県警察が虐待を受けたおそれがあるとして、児童相談所に通告した18歳未満の子供は455人で平成26年に比べ49人増加し、過去最多を更新しました。
- ・態様別では、心理的虐待の増加が著しく、平成27年中は295人で、全体の約65%を占めています。

平成27年中の認知件数は、ストーカー事案が265件、DV事案が825件で、いずれも平成26年に比べ減少しましたが、高止まり状態となっています。



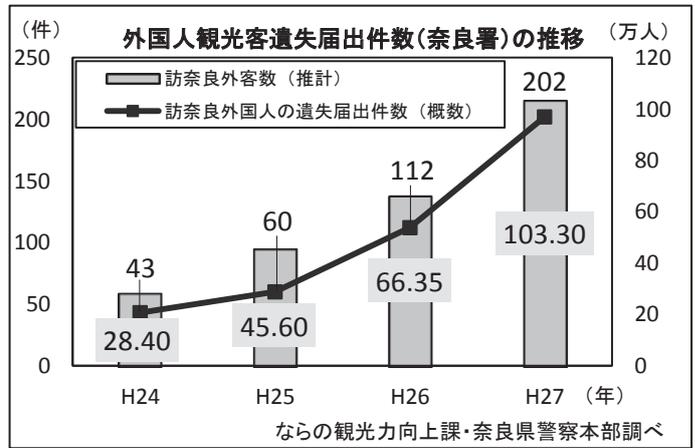
- ・振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺認知件数は77件で、平成26年より10件増加したほか、被害者の約7割を高齢者(65歳以上)が占めています。
- ・被害額は過去最多を記録した平成26年より減少したものの、3億1千4百万円と高止まり状態になっています。

- ・人身事故件数、負傷者数ともに減少傾向ですが、死者数は2年連続で増加し、うち約4割を高齢者(65歳以上)が占めています。
- ・高齢者の交通事故死者数が減りにくくなっていることが、死者数の減少幅が縮小している一因と考えられます。

人身事故類型別発生状況(H27年中)

発生状況	件数(件)	死亡(人)	死亡事故割合(%)	
車両相互	出会い頭	1,336	4	0.3
	追突	1,775	2	0.1
	右左折時	606	3	0.5
	正面衝突	131	4	3.1
	その他	541	3	0.6
車両単独	路外逸脱	15	8	53.3
	工作物衝突	41	6	14.6
	その他	29	1	3.4
人対車両	対背面	106	1	0.9
	横断中	338	9	2.7
	その他	160	1	0.6
総計	5,078	42	0.8	

奈良県警察本部調べ



- ・事故類型では車両相互が多く発生しており、中でも追突事故が奈良県下で一番発生しています。
- ・しかし、死亡事故割合では車両単独が多く、特に路外逸脱が53.3%と高い割合です。

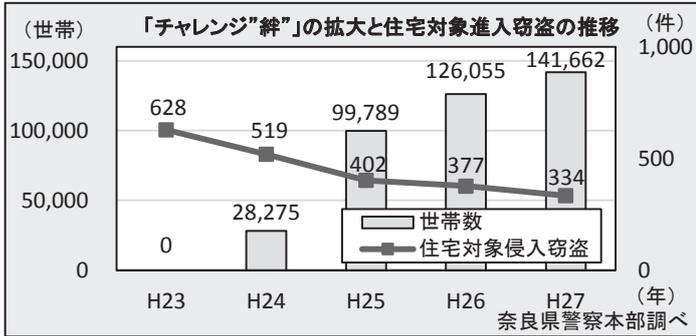
- ・奈良県を訪れる外国人の急速な増加に伴い、訪奈良外国人の遺失届出件数(奈良署)も急増しています。
- ・言語の壁や文化の違いから思わぬ危険が及ぶことがないように、良好な治安を体感できるような環境整備が必要です。

3. 戦略目標達成に向けた進捗状況

戦略1 犯罪及び交通事故抑止対策を推進します。

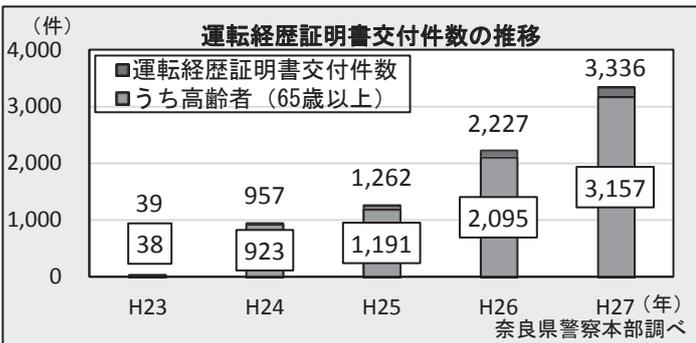
主担当課(長)名	生活安全企画課長 和田 彰彦 交通企画課長 宮本 勝弘
----------	--------------------------------

戦略目標 ①平成27年末までに、年間の刑法犯認知件数10,000件以下を目指します。
②平成27年末までに、年間の交通事故死者数を限りなくゼロ(30人以下を目途)に近づけます。



取組 地域住民相互の連帯意識や絆を深め、犯罪者が入り込みにくい地域を構築するため、あいさつ・声かけ・鍵掛け運動「チャレンジ絆」を推進しています。(①)

成果 ・平成24年6月の開始以降、平成27年12月末現在で340地区・約14万2千世帯にまで拡大しました。
・地域住民等との連携協働を進める中、住宅対象侵入犯罪は減少傾向にあります。



取組 高齢運転者対策として、運転に不安を持つ高齢者の運転免許証自主返納を進め、返納時に身分証となる運転経歴証明書を交付しています。(②)

成果 運転免許返納者への生活支援として、高齢の方が運転経歴証明書を提示したときに、運賃や商品の割引等の特典を受けられるよう、自治体や事業所と協定を締結する施策を推進した結果、運転免許を自主返納する高齢者が年々増加しています。

主な取組指標等	平成25年度	平成26年度	平成27年度	担当課名
子供・女性・高齢者が安心して暮らせる奈良の実現(①,②)				
自主防犯ボランティア団体数(団体)	711	744	760	生活安全企画課
街頭防犯カメラの設置箇所数(カ所)	42	57	81	生活安全企画課
金融機関職員等の声掛け等による特殊詐欺の阻止件数(件)	28	44	46	生活安全企画課
「ゾーン30」の整備箇所数(カ所)	13	24	35	交通規制課
犯罪検挙のための捜査力の強化(①)				
刑法犯の検挙率(%)	37.0	46.7	43.4	刑事企画課
大震災等大規模災害時における警察機能の強化(①,②)				
交番・駐在所の耐用年数超過施設数(カ所)	59	62	68	地域課
交番のネットワークの整備率(%)	23.2	23.2	23.2	地域課

これまでの成果

・「見える。聞こえる。」効果的な街頭警察活動であるメロディーパトロールや、無施錠の自転車等にダイヤル式ワイヤー錠を取り付ける被害防止啓発活動「ロック作戦」等、総合的な犯罪抑止対策に取り組んだ結果、いわゆる街頭・侵入犯罪は戦後最多であった平成14年と比べ、5分の1以下にまで減少しました。(①)
※街頭・侵入犯罪: 侵入・路上強盗、住宅対象侵入窃盗、事業所等侵入窃盗、自動車盗、ひったくり、車上・部品ねらい、自販機ねらい、オートバイ・自転車盗

・免許を返納しやすい環境を作るため、平成24年から「高齢者運転免許自主返納支援事業」を開始し、平成27年末までに2市1町165事業所の参加協力をいただいた結果、高齢者による運転免許証の自主返納は平成24年と比べて約3倍に増加しました。この他、生活道路における歩行者等の交通事故防止を目的とした「ゾーン30」の整備や、官民一体となった交通事故防止活動を推進するため、平成27年中に、民間事業者1団体と「子供と高齢者を交通事故から守る活動に関する協定」を、また2団体と「交通事故防止活動に関する協定」を締結しました。(②)

4. 平成29年度に向けた課題の明確化

＜政策目標達成に向けた進捗状況＞
 ・平成27年中の刑法犯認知件数は10,036件で、平成26年より1,104件減少し、戦後最多であった平成14年(32,017件)の3分の1以下にまで減少し、概ね目標を達成しました。
 ・平成27年中の交通事故死者数は46人で、平成26年より1人増加しましたが、戦後最多であった昭和45年(156人)の3分の1以下にまで減少しました。

＜戦略目標達成に向けた進捗状況＞
 ・あいさつ・声かけ・鍵掛け運動「チャレンジ“絆”」について、平成24年6月の開始以降、平成27年12月末現在で340地区・約14万2千世帯にまで拡大しました。地域住民等と連携協働した取組を進める中、住宅対象侵入犯罪は減少傾向にあります。
 ・運転免許自主返納支援事業について、高齢の方が運転経歴証明書を提示したときに、運賃や商品の割引等の特典を受けられるよう、自治体や事業所と協定を締結する施策を推進した結果、運転免許を自主返納する高齢者が年々増加しています。

＜奈良県の持っている強み＞
 1 県と市町村、市町村間の連携・協働により、県全体の人的資源、様々な公共施設、財源資源を有効活用し、市町村が自立して質の高い行政サービスを提供していく仕組みである「奈良モデル」の推進
 2 新たに導入する交通事故情報総合管理システムを活用し、分析の高度化による交通事故抑止に効果的な交通指導取締りの実施、地図上での「見える化」を活用した自治体、関係機関等への情報提供による道路環境の改善、交通ボランティア活動の支援が可能

＜奈良県の抱えている弱み＞
 3 治安は社会基盤であるが、中・長期的な計画に基づく体系的・継続的・計画的な治安基盤の整備が不十分

＜奈良県への追い風＞
 a 平成27年度県民アンケート結果では「住民が犯罪に遭うことがなく、その不安も感じることなく暮らせること」の重要度が5段階評価で4.53ポイントと、全32項目中2番目に高いことから窺える県民の治安の良さに対する重要度及び治安向上に対するニーズの高さ

＜奈良県への向かい風＞
 b 大阪に近く、車両や交通機関を利用すれば人や犯罪が流入しやすいという立地条件等、大都市に隣接していることから生じる治安情勢への懸念
 c 刑法犯認知件数の減少傾向から見る客観的な「安全」と県民の主観的な「安心」の乖離
 d 地域社会における人間関係の希薄化や情報通信ネットワークの進展等、社会情勢の変化
 e 警察捜査を取り巻く環境の変容
 f 犯罪・事故等に遭いやすい高齢者の増加
 g 幹線道路における朝夕の渋滞や生活道路への流入による事故の発生
 h 「南海トラフ巨大地震」を始めとする大規模災害の発災への懸念

＜強みで追い風を活かす課題＞
〔重要課題〕 子供、女性、高齢者等の安全安心を確保するため、社会を構成する多様な主体の一層の連携(1,2,a)

＜強みで向かい風を克服する課題＞
〔重要課題〕 犯罪・交通事故分析の高度化と、分析結果に基づく中・長期的な施策の策定、目標(KPI指標)の設定(1,2,b,c,d,e,f,g)

＜弱みを踏まえ追い風を活かす課題＞
〔重要課題〕 県と県警察との体系的・継続的な連携(3,a)

＜弱みを踏まえ向かい風に備える課題＞
〔重要課題〕 検挙力の強化、治安基盤の整備(3,b,d,e,f,g,h)

5. 平成26年度の評価を踏まえ、平成28年度に向けて見直した課題、取組

見直した課題	見直した取組方針、見直した内容
日本一安全で安心して暮らせる奈良の実現プラン(戦略1)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年中の刑法犯認知件数は10,036件で、戦後最多を記録した平成14年と比べると3分の1以下にまで減少しました。中でも、いわゆる街頭・侵入犯罪は3,988件で平成14年と比べると5分の1以下にまで減少し、一定の成果を挙げることができました。 ・しかしながら、刑法犯認知件数の減少傾向から見る「安全」と県民の「安心」は必ずしも合致するものではありません。これからの「安全・安心」の確保を考えていく上で、総刑法犯認知件数の減少のみを「安全の指標」として、やみくもなゼロリスクを追及するのではなく、刑法犯認知件数の減少傾向を維持しつつ、県民の皆様々に「それぞれの場面毎に具体的にどのような事件・事故に遭うリスクがあるのか」「どう対処すればいいか」等の情報をお知らせし、安心に繋げていただくことが重要です。 ・また、治安はインフラであり、県民の安全・安心を確保するためには、社会を構成する多様な主体の一層の連携に加え、計画に基づく体系的・継続的な治安基盤の整備が必要です。 ・したがって、県と県警察とが協働し、奈良県の「犯罪抑止」と「交通事故防止」の大綱となる、(仮称)「安全安心の確保のための奈良県基本計画」を平成28年度中に策定することとしました。

6. 重要課題についての今後の取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
子供、女性、高齢者等の安全安心を確保するため社会を構成する多様な主体の一層の連携(戦略1)	<ul style="list-style-type: none"> ・振り込め詐欺、サイバー犯罪等は一定の対策が取られてきたものの、依然として多発しています。また、「家庭」「学校」「サイバー空間」等、これまでの抑止対策の射程外であった領域において、子供・女性・高齢者等が虐待やDV・ストーカー等の被害に遭う事案が増加しています。加えて、交通事故死者数については、2年連続の増加に加え、高齢者の占める割合が高止まりしています。 ・こうしたことから、従前に増して子供・女性・高齢者等の安全・安心を確保するため、社会を構成する多様な主体が一層連携して、包括的・横断的な対策を実施します。
弱みを踏まえ追い風を活かす課題	今後の取組方針
県と県警察との体系的・継続的な連携(戦略1)	「日本一安全で安心して暮らせる奈良」を実現するため、県と県警察とが役割や責任を明らかにした上で、それぞれが「責任ある主体」として連携し、マネジメントサイクルを効果的に推進しながら、体系的・継続的に安全・安心の確保に取り組みます。
強みで向かい風を克服する課題	今後の取組方針
犯罪・交通事故分析の高度化と、分析結果に基づく中・長期的な施策の策定、目標(KPI指標)の設定(戦略1)	<ul style="list-style-type: none"> ・県民の安全・安心を確保するためには、犯罪や交通事故の発生状況について綿密な分析を行い、その結果や地域実態に基づいた効果的・効率的な対策を推進します。 ・県警察では、犯罪・交通事故分析の高度化を図り、分析結果を踏まえ、課題の整理や目標(KPI指標)を設定し、中・長期的な施策を策定して、(仮称)「安全安心の確保のための奈良県基本計画」に盛り込む方針です。 ・また、年次行動計画、運営指針等の策定は基本計画に配慮するとともに、効果検証を適切に行い、次期行動計画に反映します。
弱みを踏まえ向かい風に備える課題	今後の取組方針
検挙力の強化、治安基盤の整備(戦略1)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年中の検挙率は43.4%と平成26年に比べ3.3ポイント減少しました。社会環境の変化等により、これまでの捜査手法では情報を得ることが困難になってきているほか、インターネット等のサービスが悪用されることで犯人の追跡が困難となる等、捜査環境が大きく変容しています。 ・県民の安全安心を脅かす重要犯罪等に的確に対応するため、捜査の科学化、捜査支援分析の強化、捜査インフラの拡充等を進め、取調べ技術や捜査手法の高度化を図る等、検挙力の強化と捜査基盤の整備に努めます。

